

平成28年度第6回佐久市総合計画審議会全体会議事録

日 時：平成28年11月22日（火）

15:30～16:30

場 所：佐久市役所南棟3階会議室

【出席者】白井会長、山本副会長、佐藤則之委員、岩間委員、桃井委員、油井委員、秋山委員、武重委員、田島委員、花岡委員、小林壽夫委員、大池委員、武者委員、石山委員、篠原委員、中島委員、上原委員、美齊津委員 以上18名

【事務局】矢野企画部長、佐藤企画課長、羽毛田係長（土地調整係長）、中村

1 開会

2 会長挨拶

3 議 事

(1) 第二次国土利用計画（佐久市計画）素案について

・事務局より説明（資料1～3）

質問・意見

(委員)	工業用地に東芝跡地の増加を見込むとのことでしたが、既にカウントされているのではないのでしょうか。
(事務局)	工業用地の集計については、操業が停止した時点で用地としてはカウントされなくなり、改めて操業開始となった段階でカウントされるものです。
(委員)	現状はその他に入るのでしょうか。
(事務局)	そのようになります。
(委員)	資料1、P7 利用区分の構成比について、農地は保全すると記載しているにもかかわらず減少となっています。荒廃農地が宅地化されるのであれば理解できますが、佐久平駅南側の農地を宅地化することは保全の方針から外れるのではないのでしょうか。
(事務局)	佐久平駅周辺については現状として宅地化が進んでいます。このような中で、飛び石で開発が進まないようにし、良好なまちなみの保全をするため、佐久平駅周辺は宅地化と表現しています。
(事務局)	佐久平駅から半径300mの農地は扱いが第3種農地となり、開発の許可が下りやすくなる状況があります。今回樋橋地区については地

	<p>権者の方が準備組合を設立し、進めていくこととなっています。また、H22の国勢調査時と比べ佐久平周辺は宅地化が進んでいますが、市域全体が同様の傾向にあるわけではありません。このことから、佐久平駅周辺では地域の特色を磨きながら都市力を向上させていく必要があります。一方で守るべきところは守っていくとともに、それぞれの地域をネットワークで結んでいくとしています。また、現計画でも佐久平駅周辺は都市土地利用を進めるとしています。</p>
(委員)	<p>農地の利用転換の中には今の説明の内容が見当たらないように思われます。</p>
(事務局)	<p>資料1のP11、6節1等に記載していますが、利用転換について基本的に優良農地は保全するとしており、また無秩序な転換を抑制するとしています。その活用としては7節で農業経営に向けた土地利用を促進するとしています。また、第3種農地となると転換がしやすくなることから、優良農地を保全することを基本としながらも、地権者の意向を尊重し、まとまりとしての利用を進めます。</p> <p>さらに、中佐都ICについて、現計画においては開発するとしていますが、今回の計画においては、樋橋の開発等も踏まえる中で、農業として活用し優良農地の保全を図るとしています。</p> <p>資料3において数値を示していますが、田を見るとH17とH26で100ha以上の転換が見られましたが、H38までの計画としては71haに抑えたいと考えています。同様に住宅地についても約150ha増加していますが、空き家等の活用により、目標として56haに抑えたいと考えています。</p>
(委員)	<p>樋橋地域についての整備はどの程度進んでいるのでしょうか。</p>
(事務局)	<p>農振除外の見込みが立ち、これを受け地権者組合の方でこの先どのようにするかという計画づくりに入っていく予定となっています。</p>
(事務局)	<p>市としても都市開発室を設置するなど体制を整えております。</p>
(委員)	<p>P12で松本一佐久間の高規格道路について触れていますが、いつごろの整備を予定しているのでしょうか。</p>
	<p>現状ではどこにどういった整備をするのかということは決まって</p>

<p>(事務局)</p>	<p>おりません、期成同盟会を関係市町村で作り、動いている状況であります。</p>
<p>(委員)</p>	<p>河川について、堤防などは整備されていますが、堤防の上にアカシアなどが伸び川の中まで踏み込めない状況があります。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>河川の管理については、県等を中心に行っておりますが、市の建設部でも毎年ポイントを定め整備の依頼を出しています。また、地元区からも要望を頂いています。担当課にはご意見があった旨伝えさせていただきます。</p>

(2) その他

4 閉 会